

かお・人インタビュー

平成 26 年 6 月 10 日 (金)

国土交通省 九州地方整備局 遠賀川河川事務所 浦山 洋一事務所長 に聞く



九州地整の川内川・武雄工事事務所から本省勤務、本局や福岡県、熊本県、宮崎県の各河川事務所等、本省河川計画課を経て、気心知れた3度目の九州勤務。趣味の山歩きで鍛え、引き締まった体と力強い語り口に男らしさが漂う新所長の浦山洋一さん。平成27年の関東・東北豪雨災害の鬼怒川水害で、減災対策などにも携わった。大水害で培った教訓の一つにハード面とともに、避難対策の重要性を改めて再認識し、地域住民に分かりやすい避難対策を発信していかなければならないという。遠賀川では今年5月に、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、水災被害を軽減するための想定最大規模の洪水浸水想定区域図を九州初で公表している。遠賀川に関わる川づくり、まちづくりについて取り組む事務所トップの浦山新所長に話を聞いた。

●所長就任おめでとうございます。

九州や福岡との関わりはいかがでしょうか

出身は熊本市です。昭和58年4月、九州地方整備局に入省しまして、最初の勤務地が川内川工事事務所でした。福岡県内では筑後川河川事務所に2度勤務し、筑後川の河川整備計画などに携わらせていただいたことを思い出します。実は10年ほど前から久留米に自宅を構えており、九州、福岡県とともに親しみと愛着を感じています。

●遠賀川河川事務所の紹介と平成28年度事業概要について

遠賀川と言えば、日本の近代化を支えた炭鉱を抜きにしては語れません。遠賀川は日本最大の産炭地である筑豊炭田を洪水から防御するために、古くから治水対策が進められてきました。その結果、

堤防の整備は比較的進んでいます。ちなみに、完成堤防は直轄河川の平均66%に対して、遠賀川は約84%となっています。

しかしながら、治水安全度はまだまだ十分ではありません。この

ため、下流から順番に流下能力の向上を図るための河道掘削などを進めているところです。現在の中核的な事業は中間堰の改築です。平成30年出水期前の完成を目指して工事を進めています。



ポンプや水門などの構造物が多いのも遠賀川の特徴です。その予防

保全対策として、老朽化したポンプ設備、水門設備、パラペット堤

防の補修・更新なども進めています。

●河川行政担当者としての河川整備の意義、役割について

河川整備は、水害に強い安全・安心な地域を実現するとともに、川を活かした潤いのあるまちづくりにも寄与していくものです。遠賀川では約80の住民団体が川づくりに関しての活動をしています。九州の中でも住民参加の活動が活発な流域だと思います。

遠賀川の住民活動は、多方面から高く評価されていますが、平成25年、平成27年には遠賀川の2つの住民団体が日本水大賞を受賞いたしました。また、直

方市の緩傾斜水辺は、土木学会のデザイン賞を受賞していますが、これも住民活動の中で、住民からのアイデアから生まれたものです。

川づくりは、人づくりであり、まちづくりでもあると思います。川づくりを通して、まちの活性化や将来を担う人材の育成につなげていくことは行政として大きなやりがいだと思っています。



遠賀川河口堰多自然魚道
(2013 グッドデザイン賞)



直方地区 緩傾斜水辺
(土木学会デザイン賞 2009 最優秀賞)

●地域と事務所の関わりについて

前にも触れましたが、遠賀川には約80の住民団体が活動しており、流域内の市町村数も22市町村にのびます。水害対策や水質、ゴミの問題などを解決していくためには、これらの市町村、地域住民との連携が非常に重要だと考えています。

ハード・ソフトによる水害対策を市町村と連携して推進していく

ために、先般5月27日に「遠賀川水防災意識社会構築推進協議会」を設置しました。

また、遠賀川の環境を良くしていくために、住民

団体との共催で、「遠賀川流域リーダーサミット」を開催しています。



●地域建設業界への要望・メッセージ

インフラの整備や管理、さらには災害発生時の対応において、地元の建設業の存在は極めて重要です。

建設業界の信頼の確保と健全な発展に向けて、同じ

業界のパートナーとして、努力して参りたいと思います。

●これまでの赴任地の思い出

前任地の本省では、平成27年の関東・東北豪雨災害に遭遇し、鬼怒川の堤防決壊を目の当たりにしました。非常に大きな出来事で

す。この水害を契機として、大規模氾濫に対する減災対策のとりまとめに携わらせていただいたことは、私にとって大変貴重な経験で

した。その教訓の一つに河川改修が進んでいくほどに意識が「安全になった」というふうに皆さんが思われるのですが、そうではなく

て、雨も強くなっており、意識を変えてもらうことが大事だと思います。そのために、住民の皆様に対してしっかりと啓発をし、わかりやすい情報を発信していくことが求められます。

遠賀川では、全国で初めて、想

定最大規模の洪水浸水区域想定図を公表しました。また、危機管理型ハード対策を進めていくこととしています。これからも一層、市町村をしっかりと支えていきたいと考えています。

特定構造物改築事業（中間堰）
平成28年2月



●入省の動機、生きがいや趣味特技について

子どもの頃から手先が器用でしたので建築系の仕事に進もうと思っていました。しかしながら受験した試験が土木だったため、建設省に入省しました。

自宅のある久留米市の地元で、子供の学校のPTA役員や校区のまちづくり委員会活動として、子供の健全育成とか、住みよいまちづくり活動などに携わらせていただいています。親しい近所の仲

間と活動するのは何より楽しみです。

アウトドアが好きで、山歩き、キャンプなど野外活動が趣味。山歩きは東京の単身赴任の時から、さっそく、職場仲間と一緒に登山靴など七つ道具を揃え、富士山、北アルプス、南アルプスなどに登りました。山頂での食事や景色は非常に素晴らしいものです。

遠賀川で仕事をするようになったので、職場の若手職員と福智山や英彦山、宝満山などに登りたいと思っています。



<プロフィール>

出身地：熊本県熊本市

生年月日：昭和40年3月10日（51歳）

職歴：昭和58年4月 川内川工事事務所採用

- 昭和62年4月～ 武雄工事事務所（平成2年7月の六角川堤防決壊を踏まえた激特事業に携わる）
- 平成5年4月～ 九州地方整備局河川部（平成6年濁水の濁水調整に携わる）
- 平成8年4月～ 本省防災・海岸課（平成8年蒲原沢土石流災害の対応に携わる）
- 平成10年4月～ 筑後川工事事務所（筑後川の久留米市街部引堤事業に携わる）
- 平成12年4月～ 九州地方整備局河川部（遠賀川の床上浸水対策事業や復緊事業に携わる）
- 平成14年4月～ 熊本河川国道事務所白川出張所（代継橋架替工事の現場監督に携わる）
- 平成16年4月～ 筑後川河川事務所（筑後川の河川整備計画策定に携わる）
- 平成20年4月～ 九州地方整備局河川部（平成24年九州北部豪雨災害の対応に携わる）
- 平成25年4月～ 宮崎河川国道事務所（新燃岳の砂防事業、宮崎海岸の侵食対策に携わる）
- 平成26年4月～ 本省河川計画課（平成27年関東・東北豪雨災害の鬼怒川の水害を踏まえた減災対策とりまとめに携わる）